

平成24年度 【大学振興会研究奨励補助】研究成果報告書

学部名 文化情報学部

カガナ ミヤシタ トアリ
氏名 宮下 十有

研究期間 平成24年度

研究課題名 博物館における写真ワークショップの比較研究～トヨタテクノミュージアム産業技術記念館におけるワークショップと一宮市博物館との比較

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	宮下 十有	文化情報学部	講師
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

昨年度、一宮市博物館にて開催した「ここが好き！博物館」のワークショップを行い、それを分析した。その中で、博物館に親和性のある子どもたちにとって、デジタルカメラを導入することで、「博物館の魅力」を改めて感じる事が出来る仕組みが作られることが分かった。では、博物館への親和性のない子どもたちにとって、同様のワークショップを行った場合どのような結果が生まれるのかを検証した。これにより、博物館の魅力を伝えるうえで、子どもたちにとっての博物館の親和性の有無、加えて、デジタルカメラというメディアを介することによる博物館経験の変化を比較検証する。

2. 研究方法等 (300字程度で記述)

昨年度の一宮市博物館でのワークショップのデザインに基づき、トヨタテクノミュージアムで開催するワークショッププログラムを検討し、再構成した。
2013年1月19日、トヨタテクノミュージアムで開催されている週末ワークショップのプログラムの一環として、参加者を募集しワークショップを開催した。ワークショップでは、子どもたちにデジタルカメラを渡し、くじ引きで決めたペアごとに相手のカルテを作成し、カメラ、プリンターの使い方を確認した。そのうえで、ペアで、デジカメを片手に博物館の展示スペースを30分間探検し、魅力的なポイントを撮影した。撮影データをもとに、博物館の館内地図にプリントを配置し「子どもの目線によるテクノミュージアムのすてき地図」を制作した。その後、ワークショップの成果地図、および、ワークショップのビデオ撮影情報をもとに、一宮市博物館のワークショップとその成果とを比較した。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

一宮市博物館におけるワークショップにおいては、すでに博物館に愛着を持ち、友の会組織（一宮市博物館キッズクラブ（IMKC））に所属する子どもたちを対象として、「ここが好き！博物館」ワークショップを実施した。その際に、子どもたちの撮影データは、通常ではあまり注目されないミニチュアを再発見し、また「面白半分」というコメントをつけながら、壁画の中の面白い絵や、墓場の模型をいくつも撮影して並べるなど、写真があり、離れた場所にあってもそれを並べることで、その面白さを表現する別の表現媒体としての機能を地図が持っていた。一方、今回、ワークショップを開催したトヨタテクノミュージアムにおいては、テクノミュージアムのワークショップには申し込んだものの、博物館自体にそれほど通っているわけではない子どもたちも多く含まれていた。博物館の常設展示をじっくり見ることが初めてであり、博物館自体に対して、その展示物の大きさ、存在感そのものに驚きを感じているようであった。子どもたちが撮影してきたものは、からくり人形や、機織り機の仕組み、車のエンジンの仕組みなどといった、機械の機構そのものへの関心が強く見られた。

また、極端に大きなもの、極端に小さなものを撮影するよりは、ズームなどをしなくてもフレームに収まりやすいものを撮影していることも特徴的に見られた。さらに、解説に書いてあった内容を把握し、工場にかけられていたとされる兵庫の看板などを撮影する年長者もおり、まじめに細かく、目配せをしながら、丁寧に会場を観ていたことが見て取れた。

更に、博物館の学芸員の意図とは別に、等身大の板金作業などに驚きをもって撮影したケースがあった。これらの成果から、こうしたワークショップを行うことによって、博物館側が提供しようとしている展示内容と、それを把握する子どもの視線による博物館の展示内容の把握とが、微妙に異なっており、子どもにとっての面白さを再考したうえで展示を改善する一次になる可能性も見出すことが出来た。

4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①博物館	②情報教育	③博物館教育	④博物館展示
⑤ワークショップ	⑥メディア・コミュニケーション	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

本年度の第19回日本教育メディア学会年次大会において、比較対象とした一宮市博物館でのワークショップに関する発表を行った。[宮下十有 久保禎子 名和奈美 (ともに一宮市博物館) 「博物館におけるデジカメワークショップ-博物館の再発見と博物館機能の発見」第10回日本教育メディア学会年次大会 2012年9月1日] 発表した内容と、今回のワークショップの成果を踏まえ、平成25年度の日本教育メディア学会、および、アートエデュケーション研究会などで、口頭による報告、発表の予定である。

また、これらは各学会および論集にも、ワークショップの規格、分析、検証と比較研究について論文を発表することを予定している。